



名鍍会の9月例会が9月11日（火）19時より、鍍金会館2階講堂にて開催された。今回のテーマは亜鉛メッキなどの防錆メッキ上へのトップコートについて、日本表面化学㈱の諏佐様と、ユケン工業㈱の和田様からご講演をいただいた。

2社が扱っているトップコートの商品には差があるものの、昔と違って今のトップコートは1種類で多くの付加価値がつけられるようになっていた。また、クロメート処理後は一旦乾燥してからトップコート処理を行う必要があるため、自動機ライン内に導入するのではなく、ライン外に処理槽と乾燥炉を設ける必要がある。

トップコート処理が今後ますます拡大していくという認識は共通していた。その理由は以下のとおりである。

- ・ 部品のグローバル調達の中で、トップコートが主流の海外と仕様を統一したい。
- ・ 耐食性の向上。
- ・ 外観、色調、摩擦係数の安定化。



日本表面化学㈱ 諏佐様



ユケン工業㈱ 和田様

今回の例会は亜鉛系メッキラインを保有している企業が多い名鍍会ならびに愛知県鍍金工業組合の会員にとって有益な情報であったとともに、部品メーカーや完成車メーカーとつながりがある薬剤メーカーとの情報交換は、我々メッキ専業者にとって今後ますます重要になってくると実感した例会であった。



サンプル（日本表面化学㈱）